



# みなみ

発行日 平成29年10月31日



No.8

## 子どもの遊びには大きな価値が…

—「聞き上手」が子どもを育てる—

校長 宮 居 伝

大変うれしいことに、本校の職員室からは、運動場全体を見渡すことができます。私は今まで、数校に勤務してまいりましたが、本校の子どもたちの姿で感心することのひとつに、「子どもの遊び」があります。それは、一年間を通して外遊びの好きな子どもたちが多いということです。登校するとすぐにランドセルから学習用具を取り出し外に行く子ども、中休みや昼休みにはサッカーやドッジボール、遊具遊びなど、集団で遊ぶ子どもが多くいます。

このように遊んでいる子どもの姿を見ていますと「**集団で遊ぶことには大きな価値がある**」ということに、改めて気づかされます。

そのひとつは、「受容」と「できた喜びを共有する瞬間との出会い」です。みんなで遊んでいるなかでは、時にはトラブルや不満の一言も聞こえてきます。しかし、共通の目的を持つことで、また「何とかしたい・楽しく過ごしたい」という気持ちを持つことで、仲間の失敗も認め、励ましの声かけができ、**小さな成功体験の積み重ねができるチャンス**を体験しています。

ふたつめは「**環境も大切!**」ということです。一人だけでする遊びや練習も大いに大切ですが、周囲に刺激や目指す姿がある

ことで切磋琢磨しています。例えば、一輪車の練習などでは、自分もあのように乗りたいというお手本が身近にあることで意欲も出てきます。「**環境は人をつくる**」ということでしょうか。

このように「遊び」には子どもが成長する過程で、大切なものが多々あるように感じます。

ところで、話は全く変わりますが、ある本に次のようなことが書かれていました。

### 「聞き上手」が子どもを育てる

子どもが言葉を覚え始めの頃、その言葉を何度も使って母親など周りの人に確かめようとします。また、少し年齢があがると、自分が見聞きしたことについて「あれは何」「どうして……なの」といろいろな質問をして、親を困らせる場面も見られます。しかし、このことによって、子どもは語彙を増やし、知識を広げ、「話し方」「聞き方」の学習をしながら、人と人との交際の仕方を身に付けていきます。ですから、この過程は子どもの成長に欠かせない大切なものなのです。 …… (中略) ……

子どもは年齢が低いほど、相手の事情をあまり考えずに話しかけてくるものです。例えば、忙しい時でも平気で話しかけてくるのです。そのとき、親は面倒くさがないで、子どもの話を受けとめて、よく聞いてあげることが何より大切だと思います。同時に、どういう時に話しかけてはいけないかについても指導する必要があります。そのことによって、子どもは「話し上手」になるのです。

親の態度、教師の態度は敏感に子どもの心に反映するものです。話をしても聞いてくれない環境にあれば、子どもは次第に口をとぎしてしまうのです。 …… 子どもと目と目を交わし、子どもの悩みや相談ごとを親や教師は「聞き上手」で対応し、子どもを「話し上手」にして、健全に育成したいと思います。

これは、子どもの成長にとって大切な過程のことを書かれているものですが、前述しました学校での子どもの姿なども、聞き上手で聞いていただければ幸いです。「できるようになったこと」はもちろんですが、トラブルの事実やそこから解決しようとした(解決した)姿、相手の気持ちにも触れる大切さなど、聞き上手で認め、ほめてやっていただければ、なおうれしいかぎりです。子どもの育ちを子どもとともに喜べるよう、私たち教職員も、さらに頑張っていきたいと思っております。



友情委員会によるたてわり遊び



